

## 5 - 9 景観

### (1)現況調査

#### 1)調査項目

調査項目は、主要な眺望点、景観資源及び主要な眺望景観とした。

#### 2)調査地点

調査地点は、図5 - 6 1 に示す対象事業実施区域を眺望できる3地点とした。

#### 3)調査期間

現地調査は、平成14年9月19日に実施した。

#### 4)調査方法

写真撮影を行い、対象事業実施区域と主要な眺望景観との位置関係、眺望の可否及び状況について調査する。

#### 5)調査結果

##### 主要な眺望点

主要な眺望点として、新門司北一丁目フェリー乗場、浦中西公園、曾根干潟の4地点を選定した。表5 - 1 3 1 に各地点の状況を示した。また、各地点からの対象事業実施区域方向の写真は、図5 - 6 3 の現況の景観写真に示すとおりである。

表5 - 1 3 1 主要な眺望点の状況

眺望点名称	眺望点から見た対象事業実施区域の方向及び距離	眺望点の状況
新門司北一丁目フェリー乗場	南方向 約2.8km	埠頭のフェリー乗り場。南方向の山地の稜線を背景に現工場の煙突と建物を望む。
浦中西公園	東方向 約0.9km	小高い山の中腹にある公園。東方向の水平線を背景に現工場の煙突と建物を望む。
曾根干潟	北東方向 約4.7km	干潟に面した海岸。北東方向の干潟の向こうに現工場の煙突と建物を望む。

##### 主要な景観資源

調査地域周辺の景観資源として、津村島海岸、間島海岸が挙げられるが、主要な眺望点から対象事業実施区域を望んだときに、いずれの景観資源に対しても現工場の煙突や建物が眺望の妨げとなることはなかった。



図5 - 6 1 景観の調査地点

## (2) 予測及び評価

予測手順を図5 - 6 2 に示す。

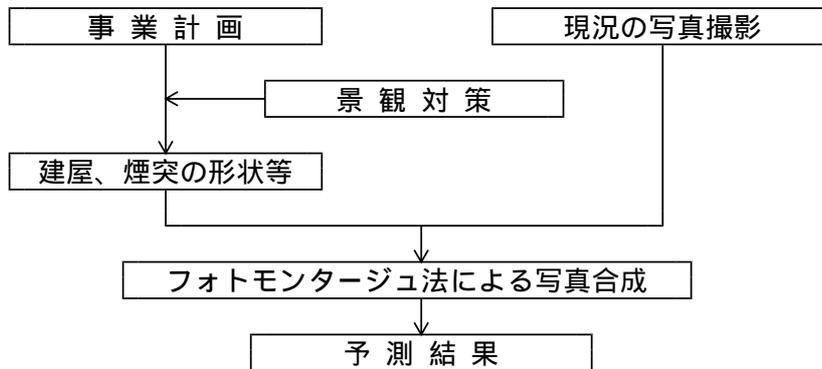


図5 - 6 2 景観の予測手順

### 1) 環境保全対策

景観について、以下の環境保全対策を講じることとする。

- ・新工場の建物、煙突の設計にあたっては、「北九州市臨海部工場・港湾施設等色彩基本計画〔カラー・ネッサンス北九州〕(北九州市 平成7年)」等に基づき、建築物の配置、外観・形態等が周辺の環境と調和し、地域のまちづくりに寄与するデザイン(色彩・形態)計画とする。
- ・対象事業実施区域内について積極的に緑化することにより、より良好な景観が創造できるように努める。

### 2) 予測

#### 予測項目

予測項目は、眺望点からの対象事業実施区域方向の眺望とした。

#### 予測時期

予測時期は、新工場の建物が完成した時期とした。

#### 予測地点

予測地点は、図5 - 6 1 に示す3地点とした。

#### 予測方法

予測地点から対象事業実施区域方向を撮影した写真に、新工場のイメージ画像をコンピューターを用いてフォトモンタージュ法により合成し、現況との比較を行った。

## 予測結果

景観の現況及び予測結果は、図5-63のとおりである。

### ア)新門司北一丁目フェリー乗場

現況では工場の煙突のみが後方の山地の稜線を切断して眺望されたが、新工場については煙突及び建物が後方の山地の稜線を切断して眺望されると予測される。しかし、新工場の煙突及び建物の色彩は白を基調とし、アクセントカラーとして青色を用いているため背景となる山地及び空に調和すると予測される。

### イ)浦中西公園

現況と同様、新工場の建物が水平線を切断して眺望されると予測される。しかし、新工場の煙突及び建物の色彩は白を基調とし、アクセントカラーとして青色を用いているため背景となる海及び空に調和する予測される。

### ウ)曾根干潟

現況と同様、新工場の建物が後方の山地の稜線を切断して眺望されると予測される。しかし、新工場の煙突及び建物の色彩は白を基調とし、アクセントカラーとして青色を用いているため背景となる山地及び空に調和すると予測される。

## 3)評価

### 環境影響の回避・低減に関する評価

新工場の建物、煙突の設計にあたっては、「北九州市臨海部工場・港湾施設等色彩基本計画（カラー・ネッサンス北九州）」等に基づき、建築物の配置、外観・形態等が周辺の環境と調和し、地域のまちづくりに寄与するデザイン（色彩・形態）計画とし、対象事業実施区域内についても積極的に緑化することにより、より良好な景観が創造できるように努めるため、対象事業の実施による景観への影響は低減される。